

令和元年度 氷見市教育総合センターだより 第6報

第2回 教育総合センター運営委員会 2月13日(木)

今年度も皆様方のご理解とご協力のもと、教育総合センター事業を実施してまいりました。ご支援を賜りありがとうございます。第2回運営委員会でいただきました貴重なご意見の一部を紹介します。



○確かな学力の育成に向けて

- ・学力が低い原因は何かを分析しなければならない。また、調査結果を分析するだけでなく、そこからどのように授業改善を行っていくかが大切である。
- ・うまい授業よりも、すべての子供が頭をフル回転させて関わり合う授業を目指していく必要がある。

○研修について

- ・教育セミナーが2回から1回になったが、菊池省三先生が来られるのは楽しみである。来て良かったと思えば負担にならないだろう。
- ・来年度生徒指導研修会が行われるが、氷見市小・中・高校児童生徒指導連絡協議会で行っている申し送り事項(ネットルール等)の共通理解や見直しに期待している。
- ・働き方改革が叫ばれているが、研修を減らす必要はないと思う。研修を行わないと教員は育たないので、他校の学校訪問研修会の授業を見に行くことを推奨していきたい。
- ・変形労働時間制度に向けて、研修会を夏休み以外の平日に行うことも考えてはどうか。

○特別支援教育について

- ・特別な支援が必要な子供が各学校にいる。若手教員研修会に特別支援の研修を入れることで学力アップにつながるだろう。
- ・低学年でつまづいている子供に早めの支援をすることが大切である。高学年になってからでは遅いので、様々な支援の方法を、担任がしっかりと知っておくことが大切だと思う。

○その他

- ・来年度開催予定の「イングリッシュセミナー(児童生徒による英語を楽しむ交流会)」等を通して、外国語教育をさらに充実させていきたい。
- ・タブレットを使って家庭学習を行っている子供もいるが、実際に書くことも大切である。メディアを使うことについて、家庭と連携していく必要がある。

第2回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

2月6日(木)

会議の初めに、事務局から「平成30年度問題行動等調査結果」「令和元年度のネットトラブル対策の取組」について説明を行いました。

その後、文部科学省から出された「いじめ対策に係る事例集」を基に、学校や関係機関の方々が3グループに分かれて、「インターネット上のいじめへの対応」について協議しました。

各グループからは、「被害者や加害者への心のケア」「家庭との連携」「『侮辱罪』や『名誉毀損罪』などとの関連」「ネットルールの大切さ」等について意見を聞くことができました。事例には解説が載っていますが、それぞれの立場から意見を述べ合うことは、とてもよい機会だったと思います。

最後に、西部教育事務所 指導主事 吉尾徹先生の助言より、SNSの対応に遅れないようにするために「動画は回収できないこと」「一生心の傷が残ってしまうこと」をしっかりと伝えていく必要があることを確認しました。

それぞれの小中学校でも、「いじめ対策に係る事例集」を校内研修会等で活用願います。

※「いじめ対策に係る事例集」は、「小中共通」→「教育総合センター」にデータがあります。

小学校学習指導要領において、情報活用能力は、「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、「教科等横断的な視点から教育課程の編成を図り育成すること」としています。そして、情報活用能力は、基本的な操作技能や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ等に関する資質・能力も含むものとしています。「2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化」ということばかりが取りざたされることが多いようですが、実際には、プログラミング的思考を含む情報活用能力を、児童生徒の発達の段階に応じて育成していくことが必要です。

そこで、本年度、教育総合センターでは、「プログラミング教育出前研修の開催」「ICT活用推進リーフレット『つながるプログラミング教育～小学校から中学校、そして社会へ～』の発行」等を行ってきました。

そしてこの度、来年度からのプログラミング教育必修化に向けて、次の2冊のカリキュラム集を作成し、小学校に配布しました。

◎「令和2年度 情報活用能力（プログラミング教育を含む）の育成に係る基本カリキュラム」

総合的な学習の時間等を活用したカリキュラムです。低学年は年間5時間、中学年は8時間、高学年は10時間を目安に計画を立ててあります。各学校で、最低限取り組んでほしい内容となっています。

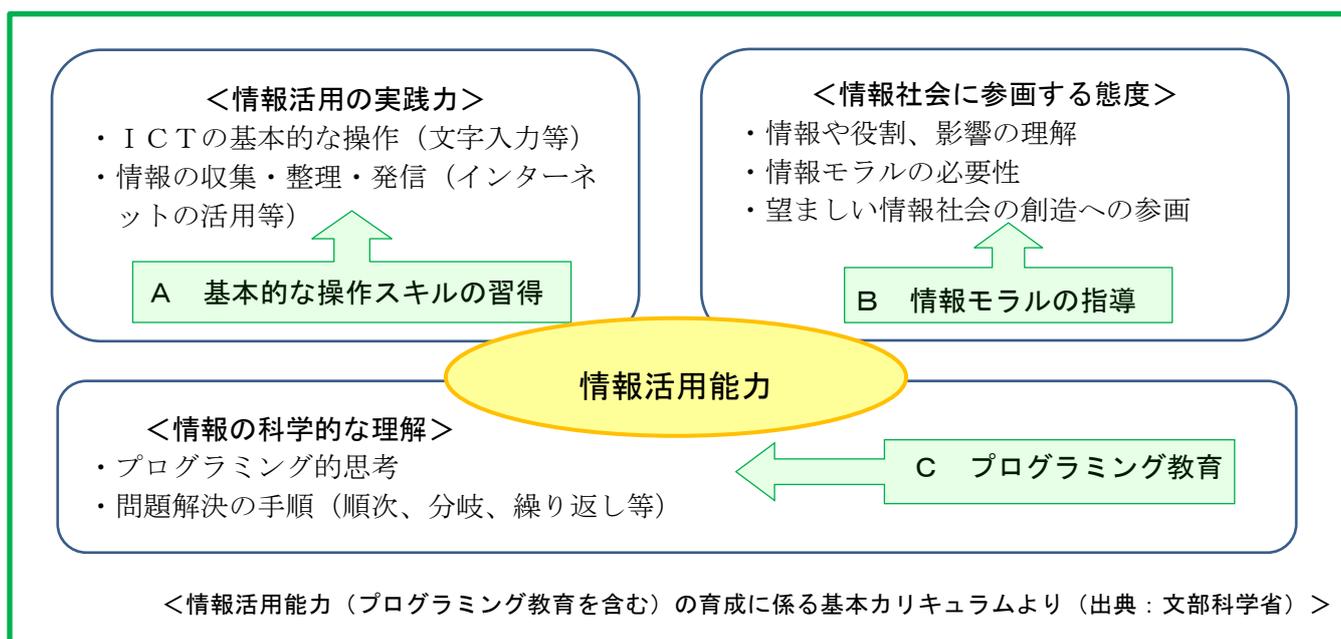
◎「令和2年度 氷見市プログラミング教育モデルカリキュラム」

学校で選択し教科等で行うカリキュラムです。様々なプログラミング教育が掲載されていますので、各学校や地域、子供たちの実態等を考慮してご活用ください。

本カリキュラムが、情報活用能力の育成のために効果的に活用していただけることを期待しています。



<育成したい情報活用能力のイメージ>



外国語教育について ～外国語科の評価～

今年度2学期、ふるさと教材英語版「We Love HIMI!」を小学校5・6年生と中学生に配布しました。先日実施した「英語・外国語活動に関する調査」から、各小中学校で積極的に活用していただいていることが見えてきました。



いよいよ令和2年度から、5・6年生で教科としての外国語科の授業が始まります。「外国語科の評価」や「新しい教科書での『We Love HIMI!』の活用法」、「帯活動の例」について、3月配布予定の「外国語教育ひみプラン指導事例集」に詳しく記述しますので、参考にしてください。

○評価について…「観点別評価」「4技能5領域別の身に付ける力 (CAN-DO)」「評価方法」

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	「聞く」	「読む」	「話す (やり取り)」	「話す (発表)」	「書く」
4技能 5領域 のCAN -DO項目	ア：基本 イ：数等情報の聞き取り ウ：概要	ア：アルファベット・音読 イ：意味理解	ア：挨拶・依頼 イ：伝え合い (質疑応答) ウ：伝え合い (その場で)	ア：基本 イ：整理して話す ウ：自分の考えを話す	ア：アルファベット・書写 イ：選んで書く
評価方法	・筆記(テスト、プリント類)	・筆記(テスト、プリント類) ・パフォーマンス(音読テスト等)	・パフォーマンス(インタビュー、ペア発表、グループ発表等) ・観察	・パフォーマンス(スピーチ発表、プレゼン発表等) ・観察	・筆記(テスト、プリント類) ・パフォーマンス(作品・ワークシート)

※主体的に学習に取り組む態度

全ての言語活動において、粘り強い取組を行おうとする態度、自らの学習を調整しようとする態度、自らの学習状況を把握し学習の進め方について試行錯誤する態度、他者に配慮しながら取り組む態度等を、振り返りカードや観察等で評価する。



おすすめ 図書の紹介

本年度、新しく購入した新刊本の一部を紹介します。是非、ご一読ください。



**AIに負けない
子どもを育てる**

読解力アップ
実践法

新井 紀子 著
東洋経済新報社

AIに負けない
子どもを育てる

AIが苦手とする読解力を人間が身に付けるにはどうしたらいいのか？読解力向上のために親、学校、個人ができることを提言し、小・中学校での実践事例を紹介しています。



**クリエイティブな
校長になろう**

平川 理恵 著
教育開発研究所

民間人校長として学校改革に取り組んだ8年間の軌跡です。公立学校でもできること、新学習指導要領を実現するマネジメントについて細かく紹介しています。



**文系の私に超わかりやすく
数学を教えてください**

西成 活裕 著
かんき出版

中学・高校で数学に挫折してしまった大人のための「最速・最短で数学のやり直しができる本」です。誰にでも必要な数学の基礎となる中学数学について優しく学べます。

文系の私に超わかりやすく
数学を教えてください